

9月21日(月)

わが家に帰る

聖書朗読 詩篇 122編

イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕する所也没有。」
ルカ 9:58

西アフリカのガーナからの帰路、私はわが家に帰ることの楽しみと興奮を大いに味わいました。それは、世界聖書学校の生徒との出会いと教育のための建設的ですが長期間に渡る多忙な滞在の時でした。

帰路、空港で、私は税関等の出国に関する全ての過程が無事に済むようにと思案することに疲れていました。ようやく、空港での最後の出国審査を終了し、飛行機へと向かうホールを歩いていた時に、私は勝利の叫びをあげました。そして、飛行機に搭乗するために滑走路を歩いていた際に、振り返ると、私たちのために費用と労苦を引き受けて下さったガーナの全ての信徒が私たちを見送りに来て下さった光景を見ました。それは素晴らしい愛の贈り物でした。再び振り返ると、今度は、尾翼にアメリカ国旗を記したアメリカの飛行機が目に見え込みました。私は立ちました。私たちはわが家に帰るのです。

詩篇の民にとって、エルサレムはわが家でした。祈りのうちに希望を表し、仲間の平和と愛のために働いたのです。民はわが家に感謝し、帰還の興奮に喜んだのです。私たちがもっと主を賛美し、感謝し、私たちの心のうちにあるわが家に神様がいて下さるようにしましょう。

讃美歌 539

祈り 親愛なる神様。私たちが、あなたのご臨在と、あなたの民と共にあるわが家にいるということを覚えさせて下さい。働きと祈りを通して私たちの心のうちに、あるべき貴きわが家を持つことができますようにお導き下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ラリー・ケイン

テキサス州 ハースト

今日の力

2015年9月21日～9月27日

翻訳 小出友紀

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

9月22日（火）

神様のほほえみ

聖書朗読 箴言 12：21～23

心の曲がった者は主に忌みきらわれる。しかしまっすぐに道を歩む者は主に喜ばれる。
箴言 11：20

私の好きな記憶のひとつは、飛行機を降りて輝く両親の顔を見た時のものです。お互いの家族が会おうという長く待ち焦がれていた喜びの時がとうとう実現したのです。

同じように、私は、神様の子どもたちが悪巧みや欺きから背を向けて、従順に神様に向かって歩むことを選んだ時の神様の輝く御顔を信じています。神様の子どもたちが敵の計画や嘘に屈服することを拒否した時に、神様は喜びに満ち溢れてほほえまれるに違いないのです。なぜでしょうか？

ヨセフが、ポティファルの妻からの誘いを拒否した時に、『どうして、そのような大きな悪事をして、わたしは神に罪を犯すことができますでしょうか。』（創世記 39:9）と言ったことを思い出しなさい。まず、ヨセフが誘惑に駆られたかもしれない一時の快楽や思い上がりに陥ることなく神様を選んだ時、神様の御心は喜びに満ち溢れていたに違いありません。次に、神様は、ヨセフを大いなるご計画のうちに覚えられ、ヨセフがやがて名誉を得て高い地位に上がることをご存知であったのです。おそらく、敵の計画が失敗に終わった時に、神様は全てを完全にご理解されてほほえまれたのでしょう。

勇気を出して、「今回だけだから、きっと大丈夫だろう」という思いを拒絶し、神様よりも人間を喜ばせるような誘惑に妥協する気持ちを拒絶しなさい。恐れを閉めて、あなたの眼前にある神様の祝福の喜びを楽しみましょう。

讃美歌 503

祈り 私たちの創造者、あがない主である神様。あなたの御言葉によって、私が、あなたの喜びのために作られたことを教えられました。あなたの善きことを私が喜ぶことができますように、あなたの誉れと栄光こそが私の最たる関心でありますように。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

バージー・ニーマン

コロラド州 ニューキャッスル

9月23日（水）

あなたの最後の日？

聖書朗読 伝道者の書 12：9～14

また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から後、主にあって死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。「しかり。彼らはその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行いは彼らについて行くからである。」

黙示録 14：13

人生は毎日のありかたを含んでいます。私たちは、時に、自己満足に陥り、それを当たり前だと思うようになることがあります。しかし、人生は年月の積み重ねによって保証されるものではなく、私たちは、『私の日々は機の子よりも速く、望みもなく過ぎ去る。』（ヨブ記 7：6）にうなずくのです。

何の後悔もなく、私たちの人生の終わりを迎えるということは非常に重要です。旧約聖書にある不道德な王たちのように、悲しみもされない最後を迎えることは実に悲しいものです。

今日、この時も、神様は贈り物を与え続けて下さいます。私たちが私たち自身の日々の人生をいかに生きるかということが、私たちが神様にお返しする贈り物になるのです。

ですから、私たちのまさに最後の日まで、親切と愛を広げることを待つべきではないのです。どこにあっても、あなたができることを通して、他者を励まして、神様にある平和のうちにいることの方が良いのです。

結局、人生が終われば、あなたが影響を及ぼした人々だけが残るのです。それをするかしないかで大きな差が生まれてくるのです。ですから、時間を無駄にすることなく、毎日を大切に意義あるものにして行きましょう。

私たちクリスチャンは肉体には死にますが、その人生は永遠なのです。

讃美歌 270

祈り 愛する神様。あなたが与えて下さる今日をそして毎日を感謝いたします。私たちを待って下さるあなたの御国の家に感謝いたします。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ジョン・クレイトン

ニューメキシコ州 クロヴィス

9月24日(木)

主は来て救って下さる

聖書朗読 イザヤ 35:1～10

主よ、私たちをあわれんでください、私たちはあなたを待ち望みます。朝ごとに、私たちの腕となり、苦難の時の私たちの救いとなってください。

イザヤ 33:2

あなたはこれまでに恐れたことはありますか？ あなたの恐れが現実のものとはならないことが分かった時のあなたの味わった安堵を覚えていますか？ 例えば、深夜のあなたの部屋の陰が、実は、クローゼットにしまわずに慌ててドアに引っ掛けていたコートだったとか。私たちは、時に、想像を膨らませすぎて考えすぎになることがありますね。

私たちの人生の羊飼いである主は、全ての恐れをただの陰に変えてしまうことがおできになるのです。『たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわざいを恐れません。あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。』（詩編23:4）とダビデは言います。

ダビデは主に付き従う全ての者たちが知るべきことを知っていました。たとえ、周囲や人間を通して生じるいかなる恐れがあったとしても、私たちの羊飼いであるイエス・キリストが、私たちの恐れを最後にはただの陰に変えて下さるのです。ただの陰を恐れるというのは馬鹿げたことですよね。

灯りがつけば、私たちの恐れが全く害の無いものであるかということがわかります。キリストの光が私たちの人生のうちに灯されれば、全ての起こりうるかもしれない危機が害のないものになるということがわかります。私たちは彼にあって強いからです。

讃美歌 294

祈り 愛する神様。全ての私のちっぽけな恐れの上にあなたの御光を見ることができるようにお助け下さい。そして、想像から抜け出して、本当のものを知ることができるよう。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

ウィリアム・E・ヤング

テキサス州 アビリーン

9月25日(金)

私は平安を守る

聖書朗読 イザヤ 8:8～17

主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優しくし、よく教え、よく忍び、反対する人たちを柔和な心で訓戒しなさい。

Ⅱテモテ 2:24～25

私の下の息子は、朝のオレンジジュースをねだる時でさえもしつこいのです。私が、うつらうつらと冷蔵庫に行き、オレンジジュースを探して注ごうとしている時に、私は、息子にがまんしなさいと言っています。今、私はこの言葉を自分自身の我慢のしどころで意識して、繰り返して自分に言い聞かせています。「お父さん、がまんしなよ」と。

私たちの天の父なる神様は、長い間、耐えておられ、いかなる死も滅びも望まれません。しかし、神様の忍耐には、人間によって、時に、疑いが持たれます。仰々しい聖人と称する人々が、「いつまでなのですか？ いつまでなのですか？」と嘆きます。また、神様の忍耐は、時に、「どこに神様が来るという約束があるというのか？」とあざけりの対象となります。時に、神様の忍耐は、弱さや存在しないことの証拠とみなされます。しかし、裁きの日は来るのです。

その日には、神様は裁きの人としてお出になります。神様の裁きは、月が満ちるのを忍耐強く待っている妊婦にたとえられます。神様は陣痛の苦しみにある女性のように泣くのです。もはや神様は平安を守られません。それは今日ではないかもしれませんが、私たち一人ひとりが、神様を讃美いたしましょう。「歌を拒む人もあれど、御国の世継ぎは 歌わであるべき、恵み深き 主なるイエスを」（聖歌486「きたれ友よともにイエスの」、アイザック・ウォッツ作詞）。そして裁きが来た日には、私たちが言葉にならずとも、私たちが、今日こうして、イエス様を知っているのと同じように、イエス様は私たちをご存じであるとお告げ下さるのです。

讃美歌 486

祈り 愛する神様。私たちが待つことができますようにお助け下さい。主よ、御心をなさしめたまえ。他者が私たちの思いではなく、あなたの御心を覚えることができますように、私たちの平安をお守り下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

バリー・コール・ポイナー

ミズーリ州 カークスビル

9月26日(土)

新 た な 物 語

聖書朗読 イザヤ 43:16～28

先の事どもを思い出すな。昔の事どもを考えるな。 イザヤ 43:18

「私の話を聞いてもらえますか」。全ての世代の人々は、自分自身の人生に大きな影響を与えた出来事や人々のことを語るのが好きです。大部分の人々が、自身がおかれている状況について説明するといった、何かしらの語るに値する話題を持っています。

イスラエルの人々は、出エジプト記の出来事を代々語り続けました。彼らは紅海で起こった信じられない出来事を語りました。海が真っ二つに裂けて、イスラエルの民は、干上がった海の底を歩いて渡ったのです。そして、エジプト軍の兵士たちが追撃しようとした時、海の壁が崩壊して、彼らを海の藻屑へと葬ったのです。

イザヤは、イスラエルの民に、新たな出来事、神様が成し遂げられるであろう新たな救いについて語ります。過去には彼らをバビロン捕囚へと送り込んだ神様が、今度は、彼らを解放して下さるのです。今、民たちは、神様による解放についてじかに物語ることができるのです。神様の開放と赦しの物語を語り継ぐ過程は今も続いています。人々は、語るべき新たな物語を、今まさに、経験するのです。

私たち一人ひとりの人生のうちに神様の御力が示されたという物語を分かち合うことは恵みなのです。私たちは、自身の物語を語るべきなのです。私たちも他の人々の物語を聞くことによって恩恵に預かることができます。あなたはどんな物語を伝えることができますか？

讃美歌 167

祈 り 父なる神様。聖書にあるたくさんのあなたの御救いの物語に感謝いたします。私たち自身の人生のうちに、同じあなたの御力を覚えることができますようにお助け下さい。私たちが自身の物語を伝えることができますようにお助け下さい。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

マイク・プレイサー
テキサス州 ボビナ

9月27日(日)

見 捨 て ら れ て

聖書朗読 イザヤ 53:7～12

「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」

マタイ 27:46

完全に神であられたイエス様は同時に完全に人間であられましたから、私たちはイエス様と繋がっています。私たちはイエス様が人間に抱いた憐れみだけではなく、その悲しみをも理解することができます。私にはその思いがわかるのです。

私の実の両親は私を捨てました。私には理由がわかりません。私の全生涯において、私は、大半の人々が普通に経験する、生みの親との繋がり、あゆみ、家族の特色や物語といった繋がりから切り離され、悲しみの重荷を背負っています。私は、ベトナム戦争のさなかに養子となりました。私は自分が生まれた場所や時間を知りません。私の出生の詳細は闇に閉ざされています。私の心は泣き叫びます。「なぜ私なのですか？なぜ見捨てられたのですか？」

私は、イエス様が見捨てられたのは、罪の贖いのためには必要であったと学びました。ひとつのことが他のために必要とされたのです。イエス様が見捨てられることは避けられなかったのです。

ベトナムから息子を養子に出すような父親を含めて、私が家族の夫であり父親になった今も、私は、私が見捨てられたことを忘れることはできません。しかし、私は、そのことを受け入れていることに気がつきました。罪が贖われ、救いが実現したのです。私は、イエス様に、イエス様の犠牲に、そして、罪の贖いによる救いの偉大な御力に近づいたことがわかりました。私はそれを、私の養子となった息子の笑顔のうちに、私の家族の愛のうちに見ることはできるのです。

讃美歌 142

祈 り 死からよみがえられたキリスト。あなたがご自身を低くされて玉座から十字架へと歩まれたことに感謝申し上げます。この地上の私たちが知る全ての深い悲しみを背負って下さいますことに感謝申し上げます。何よりも、あなたのご復活のうちにある愛と、私たちの全ての涙を乾かせる希望とに感謝申し上げます。

イエス様の御名によってお祈りいたします。アーメン。

バート・バラード
カリフォルニア州 カラバサス